

コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～

その59 上司の仕事は部下のビジョンを描くこと。それも毎日。



猪俣 恭子

中央大学文学部卒

卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで行内研修の企画・運営および講師を担当。退職後は家業の印刷会社に従事。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年 Coaching Press 株式会社を設立、代表取締役として現在に至る。

国際コーチ連盟プロフェッショナル認定コーチ

財生涯学習開発財団認定マスターコーチ

コーチエィCTPクラスコーチ

米国CCE,Inc.認定 GCDF-Japan キャリアカウンセラー

部下のやる気を引きだしたいとはよく聞きますが、なんとといっても本人のモチベーションが高くなければ、そもそも「やる気」などでてきません。「やる気」ないところに、これからを「考える」気力も生まれるわけがないわけで、だからこそ本人のビジョンを引きだし、どれだけ描けるかが上司としての腕の見せ所ともいえます。ところでビジョンとは、「実現したいことや実現したときのイメージをクリアに描いた未来の青写真」をいいます。「ビジョン」と聞くと、どうも社会的に役立つ大層なことでなければならぬもの、と捉える人が多いようですが、そんなに難しいことではなく、対象は身近なもので十分なのです。

では、具体的にどのように？ ということで私が会社員だった頃の話をご参考までにお伝えします。職場に専門学校を卒業したばかりのA君が配属されたときのことです。新入社員は会社にとって「宝」。少しでもA君の成長促進に関わりたく、帰り際にこんな質問をしてみました。

「ねえ、A君の一年後の目標って何？」

「そうっすね～。とりあえず車は一台欲しいっすね～。」

正直、ちょっとむっとしました。仕事の話をしているのに、なぜ車？ しかも、「そうっすね～」っていうその言葉遣いは何？ 「とりあえず」って一体何台欲しいの？ でも待てよ…、と思い直しました。一年後の目標は？ と訊かれて「車が欲しい」、これは今のA君にとって大切な未来への思いであることは事実。ならば、このままこの会話を続けてみよう、そう決めました。

「へえ、車かー。いいね！ なんの車がいいの？」

「そうっすね～。キューブがいいっすね。」

「ああ、キューブね。若い人に人気があるよね。何色がいいの？」

「黒がいいっすね。」

「黒！ 渋いね。車を買ったら一番最初にどこに行きたい？」

「うーん。どこに行くかなー。」

「それでさ、助手席には誰を乗せたいの？」

この間、おおよそ3分間くらいだったでしょうか。ひとしきり話したA君はうつむいて、何かをじっと考えているように見えました。

それから四か月ほどたった夏の終わりの頃です。ふと、そのときの会話を思い出しました。A君、車どうしたろうか？ あのときの思いはまだ続いているのだろうか？ 「ねえ、A君。そういえば車欲しいって言っていたよね。」すると驚いたことに、「買いました。」と言うじゃないですか。えっ！ うちの会社の給料でまだ買えるわけがない…。「中古をローンで買ったんです。」はあ、なるほど。そういうわけか…。

車を手に入れた後のA君は明らかにそれまでとは違っていました。仕事に取り組む動作や姿勢も機敏、業務に集中して取り組む様子は新人ながら頼もしくも見えました。おそらく…といってもこれは確信に近いのですが、社会人として自分の責任でローンを組み、欲しいものを自分の力で買い、働いた給料から毎月返済していく、まがりなりにも自立している自分を感じ、自信と誇りを彼は得ていたのだと思います。「今日は残業しないで早めにあがります。」そう言ってくるときもあり、理由を訊くと、週末にドライブに行くので洗車したいとのこと。そう言いながらも、仕事は決められた時間内できっちりと仕上げる働きぶりは、私も刺激を感じるくらいでした。プライベートの充実が仕事をこんなにも充実させるのかと、それを目の当たりにし嬉しくも感じました。

この彼の成長の原点はどこにあったのでしょうか？ それはきっとあのときの「とりあえず車は一台欲しいっすね。」の会話だったと思います。「こういう人でありたい」「こういうものを持っていたい」「こんなことをしてみたい」、そんな未来への「思い」をちょっとでも耳にしたら、それが実現した時のイメージが描けるような会話を創ってあげてください。「そのときに誰と一緒にいるの？」「その人はどんな表情をしているの？」「周りの人とどんな会話をしているの？」「どんな気分？」「あなたはどんな表情をしているの？」「どこにいるの？」「そのときに自分にどんなお祝いをしているの？」と。

部下に毎日未来を描かせること。それも上司の大切な仕事です。3分間だけでもいいのです。部下の思いを伸び伸びと引きだしてあげてください。きっと目の前の部下の成長や変化に感動することと思います。



コーチングプレス株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162

<http://www.coaching-press.com/> (「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!)